

歯科矯正学

責任者名：本吉 満

学期：前期

対象学年：4年

授業形式等：講義

◆担当教員

本吉 満(歯科矯正学 教授)

中嶋 昭(歯科矯正学 准教授)

馬谷原 琴枝(歯科矯正学 准教授)

田村 隆彦(歯科矯正学 専任講師)

納村 泰弘(歯科矯正学 専任講師)

内田 靖紀(歯科矯正学 助教)

清水 典佳(歯科矯正学 特任教授)

◆一般目標 (GIO)

不正咬合に対する診断，治療の必要性とその意義を理解するため，正常咬合，不正咬合の概念，矯正装置の特徴や処置の実際を修得する。

◆到達目標 (SBOs)

- ①矯正治療の目的と意義を説明できる。
- ②正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。
- ③不正咬合の原因、種類，障害，診察，検査，診断，治療及び予防法を説明できる。
- ④矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。
- ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。
- ⑥矯正治療によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。
- ⑦矯正治療によって生じうる医原性障害を挙げ，その予防法と処置を説明できる。

◆評価方法

平常試験（50%）ならびに定期試験（50%）の結果を基に評価する。

平常試験のフィードバックは、試験解説を行うことで学生へのフィードバックを行い、さらに質問がある場合にはオフィスアワーの活用にて個別学習指導を行う。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
本吉 満	火曜日 17:00～18:00・講座研究室	motoyoshi.mitsuru@nihon-u.ac.jp	
中嶋 昭	火曜日 17:00～18:00・講座研究室	nakajima.akira@nihon-u.ac.jp	
馬谷原 琴枝	火曜日 17:00～18:00・講座研究室	mayahara.kotoe@nihon-	

		u.ac.jp	
田村 隆彦	火曜日 17:00～18:00・講座研究室	tamura.takahiko@nihon-u.ac.jp	
納村 泰弘	火曜日 17:00～18:00・講座研究室	namura.yasuhiko@nihon-u.ac.jp	
内田 靖紀	火曜日 17:00～18:00・講座研究室	uchida.yasuki@nihon-u.ac.jp	
清水 典佳	火曜日 17:00～18:00・講座研究室	shimizu.noriyoshi@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

顎顔面口腔領域における成長発育、不正咬合の病態、原因や不正咬合の治療等を座学形式で理解習得する。10回ごとに平常試験を行い、授業の習得達成度を確認する。

【実務経験】本吉 満：現在、日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科を主管し、行っている不正咬合の治療の実際について、治療概念やスキル、臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

中嶋 昭：現在、日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科に所属し行っている不正咬合の治療の実際について、治療概念やスキル、臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

馬谷原琴枝：現在、日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科に所属し行っている不正咬合の治療の実際について、治療概念やスキル、臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

田村隆彦：現在、日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科に所属し行っている不正咬合の治療の実際について、治療概念やスキル、臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

納村泰弘：現在、日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科に所属し行っている不正咬合の治療の実際について、治療概念やスキル、臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

内田靖紀：現在、日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科に所属し行っている不正咬合の治療の実際について、治療概念やスキル、臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

清水典佳：長きに亘り日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科を主管して、行っていた不正咬合の治療の実際について、治療概念やスキル、臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を多数の経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
----	-----	-----	------	-----

教科書	歯科矯正学 第6版	飯田順一郎、葛西一貴、後藤滋巳、末石研二、槇宏太郎、山城隆	医歯薬出版	2019
参考書	歯科国試パーフェクトマスター 歯科矯正学	清水典佳、鈴木里奈	医歯薬出版	2016

◆DP・CP

[DP-3]

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

[DP-4]

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

[DP-5]

コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな課題の解決策を見出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

[DP-8]

コンピテンス：省察力

コンピテンシー：プロフェッショナルとして生涯にわたり、振り返りを通じて基礎・臨床・社会歯科領域において自らを高めることができる。

[CP3]幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

[CP4]歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

[CP5]研究で明らかとなる新たな知見と研究マインドをもとに、歯科医学の課題に挑戦する学生を育成する。

[CP8]各学年における学修で得た歯科医学の知識、技術および省察力をもとに、歯科医師として生涯にわたり学習する姿勢を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

必ず事前に教科書を読んで、授業内容の目的を理解しておくこと。

◆準備学習時間

授業時間相当（45時間×2単位）になるよう、各回について予習（1時間）と復習（1時間）を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

矯正・小児歯科学演習（4年前期）

矯正・小児歯科学実習（4年後期）

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		4.7	5	【遠隔】 矯正治療の歩みと 定義, 意義・目的 (教) pp.1-13	歯科矯正学に対する考え方の変遷と 定義を説明できる。 不正咬合の状態であるとどのような 障害が生ずるか等矯正治療の重要性 を説明できる。	本吉 満	E-4-1) 不正咬 合の治療
2		4.7	6	【遠隔】 咬合概論 (教) pp.66-77	咬合の定義と概念, 顎位と咬合, 顎 運動を説明できる。	本吉 満	E-4-1) 不正咬 合の治療
3		4.14	5	【遠隔】 正常咬合 (教) pp.77-85	正常咬合の概念, 種類, 保持される ための条件について説明できる。	本吉 満	E-4-1) 不正咬 合の治療
4		4.14	6	【遠隔】 不正咬合 (教) pp.85-99	個々の歯の位置異常, 歯列弓形態の 不正, 上下歯列弓関係の不正につい て説明できる。 アングルの不正咬合分類法と高橋の 分類法を説明できる。	田村 隆彦	E-4-1) 不正咬 合の治療
5		4.21	5	【遠隔】 不正咬合の先天的 原因 (教) pp.100-109	不正咬合の先天的原因にはどのよう なものがあり, それらがどのような 不正咬合を引き起こすのか説明でき る。	田村 隆彦	E-4-1) 不正咬 合の治療
6		4.21	6	【遠隔】 不正咬合の後天的 原因と予防 (教) pp.109-121	不正咬合の後天的原因にはどのよう なものがあり, それらがどのような 不正咬合を引き起こすのか説明でき る。	本吉 満	E-4-1) 不正咬 合の治療
7		4.28	5	【遠隔】 矯正歯科治療に伴 う生体反応 (教) pp.122-134	矯正治療によって起こる生体の反応 を全身的反応と局所的反応に分けて 説明できる。 矯正力に対する歯, 歯周組織, 顎骨 の反応を説明できる。	本吉 満	E-4-1) 不正咬 合の治療
8		4.28	6	【遠隔】 成長発育概論 (教) pp.14-24	身体の成長発育について説明でき る。	納村 泰弘	E-4-1) 不正咬 合の治療

9		5.5	5	【遠隔】 口腔機能の発達 (教) pp.55-65	口腔機能の発達を説明できる。	納村 泰弘	E-4-1) 不正咬合の治療
10		5.5	6	【遠隔】 治療学概論 矯正力 (教) pp.191-199	矯正歯科治療の種類について説明できる。 矯正力の種類, 作用様式, 歯の移動様式について説明できる。	田村 隆彦	E-4-1) 不正咬合の治療
11		5.12	5	【遠隔】 形態的検査 (教) pp.150-157	顔面写真, 口腔内写真, 口腔模型などの資料についての分析法を説明できる。	中嶋 昭	E-4-1) 不正咬合の治療
12		5.12	6	【遠隔】 機能検査 (教) pp.169-174	下顎運動, 咀嚼運動, 嚥下運動, 発音などの機能検査法を説明できる。	中嶋 昭	E-4-1) 不正咬合の治療
13		5.19	5	【遠隔】 頭部 X 線規格写真分析法(評価) (教) pp.160-164	頭部 X 線規格写真の分析法を学び, 計測結果から不正咬合をどのように評価するかを説明できる	馬谷原 琴枝	E-4-1) 不正咬合の治療
14		5.19	6	【遠隔】 頭部 X 線規格写真分析法(抜歯基準) (教) pp.165-169	頭部 X 線規格写真の分析の結果から不正咬合を総合的に評価し, 抜歯基準についてその考え方を説明できる。	馬谷原 琴枝	E-4-1) 不正咬合の治療
15		5.26	5	【遠隔】 治療方針の立案 (治療目標) (教) pp.183-190	治療目標設定の重要性を説明できる。	馬谷原 琴枝	E-4-1) 不正咬合の治療
16		5.26	6	【遠隔】 矯正装置の種類と特徴 (教) pp.215-217	矯正装置の基本的条件と分類を説明できる。	田村 隆彦	E-4-1) 不正咬合の治療
17		6.2	5	【遠隔】 エッジワイズ装置 (教) pp.225-229	エッジワイズ装置の特徴, 構成などについて説明できる。	田村 隆彦	E-4-1) 不正咬合の治療

18	6.2	6	【遠隔】 エッジワイズ装置 の基本手技 (教) pp.229-234	エッジワイズ法の基本手技について 説明できる。	清水 典佳	E-4-1) 不正咬 合の治療
19	6.9	5	【遠隔】 床矯正装置 (教) pp.241-247	床矯正装置, 咬合斜面板, 咬合挙上 板の作用機序, 適応症について説明 できる。	本吉 満	E-4-1) 不正咬 合の治療
20	6.9	6	【遠隔】 拡大装置 (教) pp.237-240	拡大装置について, 急速拡大と緩徐 拡大の違いを説明できる。	本吉 満	E-4-1) 不正咬 合の治療
21	6.16	5	【遠隔】 矯正用材料の特性 (教) pp.208-214	各種線材料の機械的特性を説明でき る。 接着剤の材料特性と接着機構を説明 できる。	納村 泰弘	E-4-1) 不正咬 合の治療
22	6.16	6	【遠隔】 矯正用材料 (教) pp.384-391	矯正材料に関する視覚素材を閲覧 し, その用途と使用方法を説明でき る。	納村 泰弘	E-4-1) 不正咬 合の治療
23	6.19	1	【対面】 「平常試験」 (教) pp.1-391 (第1~22回まで の内容) ※土曜日(6/19)	歯科矯正学の基礎的知識の理解, 習 熟習得状況を確認できる。	本吉 満	E-4-1) 不正咬 合の治療
24	6.23	5	【遠隔】 「平常試験(第23 回)」の解説	今までの授業内容の習熟を図り, そ の解説から理解度のチェックを列举 できる。	内田 靖紀 本吉 満	E-4-1) 不正咬 合の治療
25	6.23	6	【遠隔】 顎顔面の成長発育 の演習と解説	顎顔面の成長発育について問題演習 を行い, 解説を受けることでCBT や国家試験に必要とされる重要事項 について理解を深め, 基礎的知識な らびに理論を列举できる。	内田 靖紀 本吉 満	E-4-1) 不正咬 合の治療
26	6.30	5	【遠隔】 診断と治療の演習	診断と治療について問題演習を行 い, 解説を受けることでCBTや国	内田 靖紀 本吉 満	E-4-1) 不正咬 合の治療

				と解説	家試験に必要とされる重要事項について理解を深め、基礎的知識ならびに理論を列挙できる。		
27		6.30	6	【遠隔】 乳歯列期・混合歯列期の治療 (教) pp.263-284	乳歯列期・混合歯列期の矯正治療の目的と各種不正咬合の治療の考え方を説明できる。	本吉 満	E-4-1) 不正咬合の治療
28		7.7	5	【遠隔】 他科との共同による治療 (教) pp.336-369	唇顎口蓋裂・顎変形症の矯正歯科治療を説明できる。	中嶋 昭	E-4-1) 不正咬合の治療
29		7.7	6	【遠隔】 口腔衛生管理・偶発症 (教) pp.370-383	矯正歯科治療中の口腔環境の特殊性と口腔衛生指導・管理の必要性を説明できる。	中嶋 昭	E-4-1) 不正咬合の治療
30		7.14	5	【遠隔】 矯正装置の説明 (教) pp.263-326	視覚素材を活用し、矯正治療に際し、使用する矯正装置について患者や保護者に分かりやすく説明するために必要な基本的知識を説明できる。	中嶋 昭	E-4-1) 不正咬合の治療
31		7.14	6	【遠隔】 実習説明 舌側弧線装置 (教) pp.217-222	舌側弧線装置の製作過程を収めた動画を視聴し、製作時の注意点や基本構成、作用機序、適応症を説明できる。	田村 隆彦	E-4-1) 不正咬合の治療

